

まちづくり委員会が いよいよ動き始めました!!

新生大田市における「まちづくり元年」と位置付けた平成 18 年度、住民と行政との協働により、地域にふさわしいまちづくりを進めるため、市内を7つのブロックに分け、それぞれのブロックにまちづくり委員会を設置しました。

これまで各ブロックにおいて、地域の特性を活かしたまちづくりの方向性を模索する会議を、何度も重ねてきました。住民が中心となってまちづくり計画を作るのは初めてのことで、戸惑いや、思うように進まない時期もありましたが、委員と市の職員が何度もひざを交え、ようやく各ブロックのまちづくり計画が形を成してきました。

今年度からはいよいよ計画の実践に取り組むこととなります。



高さ 20 m の断崖から落下する豪快な清滝は、桜や紅葉の名所であり、憩いの場として多くの人に親しまれています



7つのまちづくり委員会のうち、実践の第一歩を踏み出したのは、富山町・朝山町・波根町・久手町で構成する「東部ブロックまちづくり委員会」です。

みんなの思い

東部ブロックまちづくり委員会（瀬尾良基会長）は、計画づくりにあたり、まず、委員が地域に向き、地域で抱える課題や、地域の将来像について聞き取り調査を行いました。また、地元の小学生を対象にアンケート調査を行いました。

その結果、「次代を担う子どもたちが将来も住み続けたいと思えるまち」、「高齢者が今まで培った知恵や共通の思いであることが分かりました。そして、子ども

もたちからは、「地域の豊かな自然が大好き」という声がたくさん寄せられました。そこで、次代を担う子どもたちが、住んで良かったと思えるまちづくりを進めるため、自然環境の保全活動と文化・伝統芸能の保存伝承に力を入れて取り組むことにしました。

清滝をきれいに!

その活動の第一弾として、4月22日に、久手町にある清滝の清掃活動を行いました。

当日は、あいにくの雨でしたが、地元の子どもたちを含め約60人が参加し、清滝や、これに通ずる約200mの遊歩道のごみ拾いや草刈を行いました。約1時間の清掃でしたが、空き缶などを30リットルのごみ袋で3袋も回収!!予想外のごみの量に、参加者一同驚きました。

また、地元の久手町商工振興会などの協力を得て、ぬかるんで歩きにくかった遊歩道の一部に砂利を敷き、老朽化し使用していなかったトイレの撤去も行い、清滝は、多くの人に楽しんでいただける景観を取り戻し

ました。

これから・・・

瀬尾会長は、「清滝の清掃活動は今後も続けていきたい」と話し、さらに、「富山、朝山、波根それぞれの地区でもいろいろな活動を企画しています。多くの皆さんの協力を得ながら、できるところから、まちづくりを進めていきたい」と語り、今回の取り組みに確かな手ごたえを感じたようです。

夏休みには、きれいな清滝で、木漏れ日の中、水しぶきを浴びて、心と身体を癒してみませんか。

